神戸新聞
2014年7月28日 月曜日 25面 姫路版

大学生と組みながら、技を教わる子どもたち＝姫路独協大

姫路独協大の柔道部員

小中学生を指導

組み合い、ともに汗

姫路独協大（姫路市上大野7）の柔道部員が、子どもたちに技を手ほどきする「少年柔道合同錬成会」が27日、同大であった。播磨地域の15の柔道場に通う小中学生約150人が参加し、学生らと畳の上で交流を深めた。

同大が世代間交流を進める地域連携事業の一環。錬成会は昨年9月から開き4回目。同部の部員が講師を務め、柔道の技や礼儀作法を教えている。

柔道着姿の子どもたちは、学生15人と寝技の乱取りなどを体験。実戦的な講習では、大柄な相手の体勢を崩す足払いの技を繰り出す間合いの取り方などを教わった。大きな学生の襟をつかみ、子どもたちが「ヤー」と張り上げる声が道場のあちこちで響いていた。

同部の池田翼副主将（21）は「子どもたちには柔道を好きになってほしい」。龍野若竹会の松本登喜定（ときさだ）君（11）は「優しくて分かりやすかった。教えてもらった足払いをもっと練習したい」と目を輝かせた。（大山伸一郎）